Rio

豊田市矢作川研究所　月報

◆川魚はお好きですか？
◆『枝下用水日記　－120年史編集－』発行しています
◆矢作川の流量減少に季節性はあるのでしょうか？
◆矢作川学校この夏も盛況です！
◆寄贈書紹介　雨宮 剛　編著『もう一つの強制連行　謎の農耕勤務隊－足元からの検証－』

9
2012
No.167

豊田市矢作川研究所　〒471-0025 愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F
TEL 0565-34-6860　FAX 0565-34-6028　e-mail yahagi@yahagigawa.jp　URL http://yahagigawa.jp

川魚はお好きですか？

宮本　淳司

ひつまぶし、鮎の一夜干し、鯉こく、なまずのかば焼き、いな饅頭、鰡（ぼら）雑炊、鮒味噌、もろこ寿司、あま茶…、これらはすべて川でとれた魚の料理ですが、食べた事はありますか？「ひつまぶしや鮎の一夜干しはあるけどあとはちょっと」、「鮒って食べられるの？」という声が聞こえてきそうです。実際、私たちは行楽や旅行先等で川魚を食べることはありますが、近所の魚屋さんの店先を覗いても養殖もののニジマスとか鮎、鰻のかば焼きくらいしか並んでいないことが多いですから、まあこのような回答だったとしても仕方がないのかもしれません。

6月18日の中日新聞には、全国鮎養殖漁業組合連合会が名古屋駅で鮎の甘露煮を配布したことを取り上げ、「鮎を食べたことのない人に、ぜひ一度本物も味わってもらいたい」という談話の載った記事が出ていました。比較的身近と思われる鮎でさえも、すでに私たちから遠い存在になってしまったように感じられます。これは川魚を食べたり調理した経験のある方が高齢化していること、川魚の漁獲量が減少したことや、食生活の多様化で食べる機会が少なくなったことが原因と考えられます。また、川魚を獲るための漁具や漁法、調理法や調理道具も、私たちの記憶から忘れ去られていくのは時間の問題かもしれません。

鮒味噌

天然鮎感謝祭で振る舞われた鮎の塩焼き

私の子供の頃は、祖父が川で釣った鮒を祖母が鮒味噌や煮付けにしているのを見ていますし、大叔母は近所で釣った鮎を貰ったとき、「夏を感じるねえ」と言っていました。中学生の頃には、自分の釣ったシラハエが唐揚げになって弁当のおかずに入っていました。

今から二十数年前に勤務していた水産試験場弥富指導所の仕出し弁当には、年末に鮒が1尾、鮒味噌になって入っていて、「今日は豪勢だなあ」と言った方がいたことを考えると、私たちの身の回りから少しずつ川魚を食べる食文化や伝統が失われているように感じます。

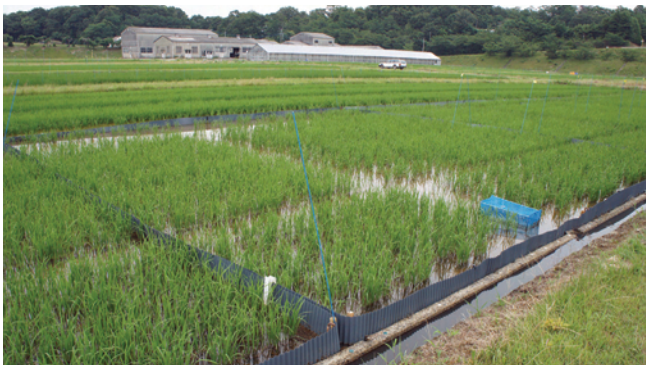
今から十数年ほど前に、佐屋町（現愛西市）にお住まいの方は、「秋にはため池の水を落としてかいぼりするから遊びにおいで。昔ほどではないけど鮒や鯉が捕まるから御馳走してあげるよ」と誘ってくれましたし、立田村（現愛西市）の漁協が釣り大会の際、「釣った後で食べるときに鮒よりも鯉の方がおいしいから釣り大

会で放流する魚は鯉にしよう」と言う役員さんがおり、食べるのにちょうど良い大きさの鯉が放流されていました。「鰻は買って食べるものではなくて、釣って食べるものだ」という知り合いもいました。

皆ご存知の鰻丼

さて、今や絶滅の危機にある川魚を食べる食文化ですが、最近少しずつ復活のきざしも見え始めています。豊田市では鮎の一夜干しを素揚げしたものが小中学校の学校給食に出されているようですし、津島市では地域の産物を取り入れた「信長めし」と銘打った料理を提供していますが、そこには「甘露煮」や「箱寿司」といった、モロコの料理が入っています。また、豊山町ではドジョウの甘露煮をのせた箱寿司、「どじょう寿司」を地元の名産にし、ゆくゆくは空弁にしようと取り組んでおられます。しかし、モロコ、モツゴ、鮒、ドジョウ等の水田やその付近に住む魚は、圃場や水路の改修や整備によりめっきり少なくなってしまい、地元で材料を手に入れることも難しくなってきているようです。

そこで私たち水産試験場も昨年度から農業総合試験場と連携して田んぼで水稲と一緒にモツゴやモロコの養殖を行うという試験研究を始めています。また、今年度は漁協の協力を得て、小学生に稚鮎の放流を体験させることも行いました。お隣の岐阜県では、川の文化を未来へ伝えることを目的に、漁師さんの話を聞きながら川魚料理を食べる「ぎふ魚食文化サロン」が、有志の方々により昨年から開かれています。矢作川でも一般の方が川への関心を高めてもらうことを目的に、



農業総合試験の水田でモツゴの養殖試験

もろこ寿司

「天然鮎感謝祭」や「利きアユ会」が開催され、また、巴川の鮎祭りでは天然鮎の販売が行われ、私たちに昔から変わることのない「川の恵み」のおいしさや豊かさを教えてくれています。

川魚を食べる食文化を守ることは、単に調理法や味を後世に残していくということだけでなく、川に棲む魚を増やすこと、友釣り、やな、筌（うけ）などの漁法や漁具を残すこと、水質など川の環境を守り、流域の景観を保全することにつながり、私たちに川の恵みを与え続けることになると思っていますので、もっと皆さんが川魚の食文化に関心を持ってくれるとよいなあと思っています。

（みやもと　あつし、
愛知県水産試験場内水面漁業研究所主任研究員）

▶『枝下用水日記 ―120年史編集 ― 』発行しています

2008 年度より進めています、枝下用水 120 年史編集のニューズレターです。
「枝下用水の話を聞く会」の記録や活動報告など、現在 vol.8（2012 年 6 月 21 日）まで発行しています。
ご興味ある方、当研究所までお問い合わせください。

担当　逵（つじ）

矢作川の流量減少に季節性はあるのでしょうか？

白金　晶子

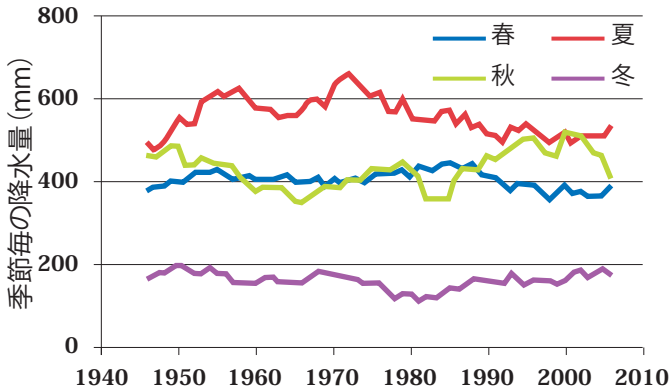


図１　名古屋の季節別降水量の経年変化（気象庁 HP から引用）。
10 年間の移動平均で表しています。

矢作川研究所では都市河川「矢作川」の再生を目指すプロジェクトを今年度より立ち上げました。その一環として矢作川流域の降水量、流量、利水量などの既存資料を収集しています（Rio No. 154 参照）。これらのデータから、矢作川では近年、流量が減少していることが明らかになりました。そしてこの減少傾向は 1971 年に河口から約 80 km 上流に、総貯水容量 8,000 万㎥の矢作ダムが建設されて以降、顕著になっていることが分かってきました。では、矢作川の流量減少に季節的な違いはあるのでしょうか？

まず矢作川流域周辺で、矢作ダム建設以前からデータが存在する名古屋の降水量を参考に季節別で見ると、夏が最も多く、続いて春と秋はほぼ同程度で、冬は著しく少ないことが分かります（図１）。一方、矢作川中流（平戸橋付近、河口から約 45 km）の河川流量も夏が多く、秋、春、冬の順に少なくなり、降水量と密接な関係がありました（図２）。さらに夏以外の季節では 1970 年代以降、流量の少ない日が増加し、冬はその傾向が最も顕著に表れていました。しかし降水量はどの季節も矢作ダム建設前後で有意な差はみられませんでした。従って、ダム建設以降、夏以外の季節は高度な水利用の影響により、河川流量の少ない日が多くなっていることが明らかになりました。

春と秋では降水量が似通った傾向であったにも関わらず、ダム建設以降、春の流量減少がより明確であったのは、しろかき、田植えなど農業用水の需要が増加するためと思われました。また夏は降水量が多いことに加え、矢作ダムが洪水に備えて貯水容量を減らすため、河川流量の減少がみられなかったと考えられました。

矢作川中流では水需要の増大により、河川流量が減少し、流量の季節性に変化を及ぼしていることが分かってきました。しかし流量の変化には都市域の拡大や人工林の放棄など、他の要因が関わっている可能性もあります。今後は矢作川上流や支川などでも資料を収集し、矢作川に生息する生物に大きな影響を与える可能性のある流量を決める要因について調べていく予定です。

（しらがね　あきこ、研究員）

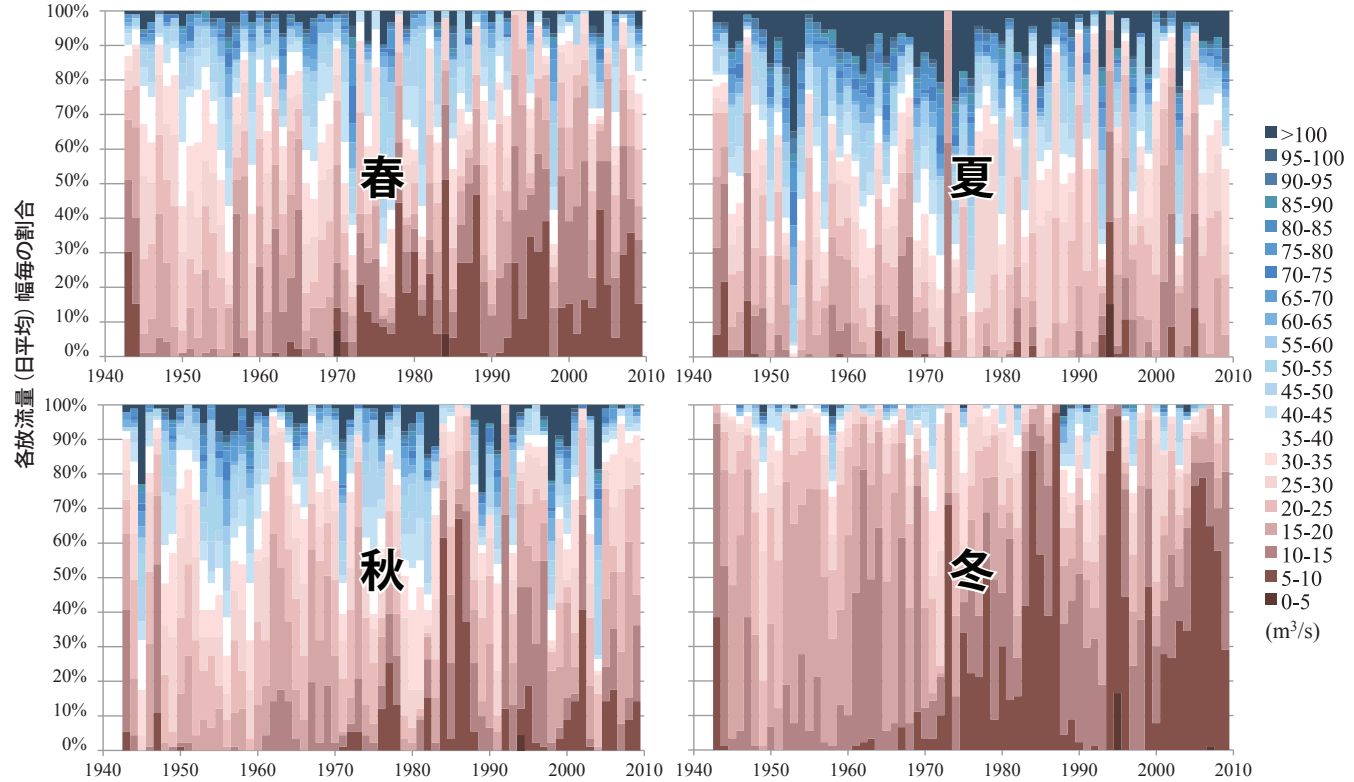


図２　矢作川中流（平戸橋付近、河口から約 45 km）の季節別河川流量の経年変化（中部電力株式会社からの提供データおよび矢作川利水総合管理年報を引用）。
日平均流量を用いて、毎年の各流量幅に含まれる日数の割合を示しています。青が濃いほど流量が多く、赤が濃いほど流量の少ない日の割合です。

▶矢作川学校この夏も盛況です！

この表は、今年度これまでに実施した矢作川学校の状況です。小学校、自治区、市民団体と様々なところから依頼の声をいただき、矢作川やその支流で地域の人たちと一緒に生物の観察会や調査を実施しています。採れた魚や川虫を手にした笑顔の子どもたちに出会えることが喜びです。（内あ）

平成 24 年度矢作川学校開催実績

No.	開催日	対　象	参加人数	実施場所	依頼内容・目的	派遣講師
1	4月16日	枝下川神社始水式参加者	120	豊田土地改良区水源管理事務所	枝下用水120年史編集にまつわる講話	逵　志保
2	6月 8 日	豊田市立御蔵小学校 5・6 年生	8	阿摺川（御蔵小前）	阿摺川の生き物観察会	白金晶子
3	6月 9 日	初音川ビオトープ愛護会	20	初音川ビオトープ	初音川ビオトープ植物観察会	洲崎燈子
4	6月10日	稲武地区の小学生親子	16	名倉川	名倉川の水質および水生生物調査	内田朝子
5	6月13日	豊田市立上鷹見小学校全校生徒	29	一ノ瀬川	一ノ瀬川の水生生物観察会	内田朝子
6	6月27日	豊田市立挙母小学校 6 年生	40	研究所・2 階会議室	矢作川中流域の水生生物の紹介。研究所探検	内田朝子
7	6月28日	地元の方・ようこそいなぶふれ愛隊・山里体験推進協議会	10	名倉川遊歩道	稲武町で川辺の植生を紹介する指導者養成講座	洲崎燈子
8	7月 9 日	愛知県立豊田東高等学校 2 年生	238	豊田東高校体育館	人工林に関する講演。野外調査を行うための事前指導	洲崎燈子
9	7月10日	豊田市立挙母小学校 6 年生	12	挙母小ビオトープ	外来種についての話。小学生がするビオトープ管理と整備の方法（現地指導）	洲崎燈子
10	7月13日	豊田市立挙母小学校 6 年生	80	西庁舎・研究所	身近な自然である矢作川の水生生物の紹介。研究所の見学	間野隆裕・内田朝子
11	7月14日	井郷地域の小学生親子	40	水無瀬川	水生生物観察会とパックテスト	白金晶子・山本大輔
12	7月18日	愛知県立西尾高等学校 3 年生	100	愛知県立西尾高等学校	矢作川の豊かできれいな水の回復について（講演）	白金晶子
13	7月23日	榑俣地区の農家	5	豊田市平畑町内	自然環境保全に向けて地域の取組指導（ビオトープ作成指導）	間野隆裕
14	7月25日	若林地区の小学生	20	若林交流館・多目的ホール	逢妻男川についての講演。植物観察会	洲崎燈子・白金晶子
15	7月28日	豊田市立青木小学校の親子	200	越戸公園横の矢作川	水生生物観察会	内田朝子・藤井泰雄・池田賀津子
16	7月28日	西三河野生生物研究会	40	安城市民交流センター	夏休み自由研究に向けて、昆虫採集や標本造りに関する指導	間野隆裕
17	7月29日	家下川を美しくする会	100	家下川	「生き物調べ」の意義と方法の指導	山本敏哉・山本大輔
18	8月 2 日	永覚みどりの会	89	永覚公民館・西大排水路（承水工）	川と私たちの暮らしについての講演と承水工で水生生物観察会	内田朝子・山本大輔
19	8月 3 日	愛知県立西尾高等学校 3 年生	20	越戸公園付近・平戸橋いこいの広場	水生生物調査（中流域での探求活動）	白金晶子
20	8月 4 日	小中学生・一般	40	自然観察の森	夜間昆虫観察会	間野裕隆
21	8月 7 日	愛知県立豊田東高等学校 2 年生	17	豊田市桑田和町（鈴木正之さん私有林）	野外調査「豊田市足助地域における森の健康診断　その1」	洲崎燈子
22	8月18日	榑俣地区の農家	30	豊田市平畑町内	自然環境保全に向けて地域の取組指導（講演、標本展示説明）	間野隆裕
23	8月19日	小原地区の小学生親子	40	有平橋下・矢作川と丹波川	水生生物観察会	白金晶子
24	8月19日	足助地区の親子	13	足助川	水生生物観察会	山本大輔・内田良平
25	8月22日	愛知県立豊田東高等学校 2 年生	6	豊田市桑田和町（鈴木政雄さん私有林）	野外調査「豊田市足助地域における森の健康診断　その2」	洲崎燈子

枝下用水 120 年史編集作業の中で研究所に寄贈いただいた本の紹介です。

雨宮 剛 編著『もう一つの強制連行　謎の農耕勤務隊 －足元からの検証－ 』

（2012 年 5 月、自費出版 4000 円）

編者の雨宮剛さん（青山学院大学名誉教授）は 1934 年豊田市御船町生まれ。自身の研究分野とは異なるものの、太平洋戦争末期に鍬を担いだ兵隊を目にしたことが脳裏から離れず、2007 年より聞き取り調査を始めました。その兵隊は、後に朝鮮半島から強制連行された陸軍農耕勤務隊であること、彼らの目的は、食糧増産だけでなく航空機燃料用のサツマイモやジャガイモの耕作、航空燃料に用いる松根油の原料の松根掘りにあり、戦争末期、豊田市内に点在していたようです。

聞き書きの中には、農耕隊を目にした方たちが、自分の子どももきっと戦地で同じ思いをしているだろうと、逃げて来た少年兵を隠したり、食事を食べさせたりしたという話もあり、あの時代を記録していくことの意義と、受け取る私たちの責任も考えさせられました。（つじ）

【問い合わせ先：雨宮恵一さん】Tel.0565－45－0094 ／ Fax.45－0096

後記

『枝下用水 120 年史資料集』その 2 の校正作業中です。扱う時代は昭和 5 年から現在まで。豊田土地改良区で原稿チェックを進めていると、その 1 の時とは違い、経験談が次々と出てきて、資料の解説をしていたはずが、いつのまにかこちらが解説されています。まさに枝下用水を生きる人なのだと実感する場面でした。（つじ）

R100 再生紙を使用しています